

平成26年7月

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

佛乗寺 住職 笠原 建道

講頭 廣田 正至

暑い毎日ですが、檀信徒の皆さまにはお元気でご精進のこととお慶び申し上げます。秋風が待ち遠しい日々が続きますが、御題目第一にお励みなされますようお願い申し上げます。

今月は、総本山第六七世日如上人が、六月の広布唱題会で、今日の有り様を御指南下さったものをお送りいたします。よくよく拝読され、御信心を強盛にとって頂きたいと願いたします。

《日如上人お言葉》

「大聖人様は『神国王御書』に、

「我が面を見る事は明鏡によるべし。国土の盛衰を計ることは仏鏡にはすぐべからず。仁王経・金光明経・最勝王経・守護経・涅槃経・法華経等の諸大乘経を開き見奉り候に、仏法に付きて国も盛へ人の寿も長く、又仏法に付きて国もほろび、人の寿も短かかるべしとみへて候。譬へば水は能く舟をたすけ、水は能く舟をやぶる。五穀は人をやしない、人を損ず。小波小風は大船を損ずる事かたし。大波大風には小舟やぶれやすし。王法の曲がるは小波小風のごとし。大国と大人をば失ひがたし。仏法の失あるは大風大波の小舟をやぶるのごとし。国のやぶるゝ事疑ひなし」(御書1301)

と仰せであります。

すなわち、国土の盛衰を計り知ろうとするには、仏法の鏡に照らして見るに越したことはなく、法華経等の諸大乘経を見ると、仏法によって国も栄え、人の寿命も長くなり、また仏法によって国も亡び、人の寿命も短くなると説かれている。

国家社会を教導すべき仏法が正しければ、人の生活も平穏であり、国家社会も安定して、人々は栄えていくが、仏法が正しからざれば、国家の指導も正しく行われず、かえって誤った仏法によって、人々は知らず知らずのうちに悪縁に誑かされて悪業を重ね、人心は極度に攪乱し、ために国家社会は安定を失い、破滅への道を歩むことになると仰せられているのであります。(乃至)

昨今の国内外の騒然とした様相を見ると、この感を強くするのであります。

されば、大聖人様はこうした混沌とした末法濁悪の世相を通覧され、『立正安国論』に、

「汝早く信仰の寸心を改めて速やかに実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏国なり、仏国其れ衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壊れんや。国に衰微無く土に破壊無くんば身は是安全にして、心は是禅定ならん。此の詞此の言信ずべく崇むべし」(同250)

と仰せられているのであります。(乃至)

広布達成、仏国土実現は「汝早く信仰の寸心を改めて速やかに実乗の一善に帰せよ」と仰せの如く、仏法の鏡に照らして、ただひとえに破邪顕正の折伏をもってする以外にはないことを知るべきであります。

よって、大聖人様は同じく『立正安国論』に、

「仏道に入りて数愚案を廻らすに、謗法の人を禁めて正道の侶を重んぜば、國中安穩にして天下泰平ならん」(御書244)

と仰せられております。また、同じく『立正安国論』に、

「早く天下の静謐を思はゞ須く國中の謗法を断つべし」(同247)

と仰せられ、さらに『聖愚問答抄』には、

「今の世は濁世なり、人の情もひがみゆがんで権教謗法のみ多ければ正法弘まりがたし。此の時は読誦・書写の修行も観念・工夫・修練も無用なり。只折伏を行じて力あらば威勢を以て謗法をくだき、又法門を以ても邪義を責めよとなり」(同403)

と仰せられているのであります。

されば、今、我々はこの御金言を心肝に染めて、一人ひとりが全世界の平和と全人類の幸せのため、仏国土実現を目指して、いかなる困難にも一步も退くことなく、唱題を重ね、勇氣凜々、破邪顕正の折伏を実践し、もって明年の日興上人御生誕七百七十年までには、必ず全支部が折伏誓願を達成すべく、晴れて仏祖三宝尊の御照覧を仰がれますように心から願うものであります」

と御指南下さいました。

私たちは猊下の弟子檀那として、この仰せを心に深く刻み、本年後半の折伏の闘いを進めてまいりましょう。佛乗寺檀信徒の皆さまの御精進をお祈り申し上げます。

以上